

令和7年度 第2回花見川区支え合いのまち推進協議会議事要旨

日 時 令和7年12月15日(月) 午後3時～午後4時45分

場 所 花見川保健福祉センター3階大会議室

出席委員数 16人

欠席委員数 8人

傍聴人 0人

事務局 11人

【1】次第

- 1 開会
- 2 委員長挨拶
- 3 区長挨拶
- 4 会議の公開について
- 5 報告事項

花見川区支え合いのまち推進計画の令和6年度の進捗状況について

6 議題

- ・第5期花見川区支え合いのまち推進計画の進捗状況中間報告（令和7年度）について
- ・花見川区支え合いのまち推進協議会だより（第27号）原稿案について
- ・次期（第6期）地域福祉計画の方向性について

【2】議事要旨

委員定数24名のうち、8名の欠席を確認し開会した。

委員長挨拶、区長挨拶の後、友利三雄委員の退任と後任として天戸中学校地区部会から犬田勝昭委員が就任したことを報告した。

事務局より、会議の公開について説明があり、傍聴人の入室、会議録の作成、ホームページ及び推進協だより等への掲載のため、写真撮影、録音を行うことについて、また自治会等を通じ地域住民や公共の場に公開させていただく旨、了承を得た。（今回傍聴人0名。）

報告事項

支え合いのまち推進計画の令和6年度の推進状況について

千葉市社会福祉協議会花見川区事務所（吉田所長）から支え合いのまち推進計画令和6年度の推進状況について説明があった。

令和7年7月8日に行われた「令和7年度 第1回花見川区支え合いのまち推進協議会」で報告した「花見川区支え合いのまち推進状況（令和6年度）」を地域福祉課に提出したものである。

議題（1）

花見川区支え合いのまち推進計画の推進状況（令和7年度）について

議題の進行は鈴木副委員長により行われた。

社会福祉協議会各地区部会（①検見川地区部会から②朝日ヶ丘、③花園、④犢橋、⑤こてはし台中学校区、⑥幕張・武石、⑦花見川、⑧花見川第2、⑨こてはし台、⑩天戸中学校区、⑪さつきが丘・宮野木台、⑫畑）資料1に基づき、事務局（社会福祉協議会花見川事務所、吉田所長）から報告。

地区部会の報告後、あんしんケアセンター花見川、あんしんケアセンター花園から資料2に基づき報告。

地区部会の以外の報告

人材育成の仕組み作りに関して、幕張中学校の生徒のボランティア部の活動について紹介。幕張中学校ボランティア部は15名の生徒が所属している。社会福祉協議会あてに区内の地域福祉活動に参加したいとの問い合わせがはいった。今年度は花見川赤十字奉仕団の活動に参加。区民まつりの義足体験ブースのスタッフや九都県市合同防災訓練の重点会場での新聞紙スリッパ、着る毛布体験

のスタッフとして活躍。今後、他の中学校の生徒によるボランティア活動も活発に行われる体制構築も必要と考える。

議題（２）

花見川区支え合いのまち推進協だより（第２７号）原稿案について

議題（２）以降の進行は金子委員長により行われた。

事務局から「資料３ 推進協だより（第２７号）原稿案」について説明があった。

今回の紙面構成として、支え合いのまち推進計画に基づき、前号に引き続き、地域の取組みである地域活動にスポットをあて、地域活動の紹介記事を中心に掲載する予定で取材を進めている。

地域の活動紹介として６団体の取組みを掲載。花見川区健康課からのお知らせとして「生活習慣のポイント」を掲載する。

発行日は、令和８年３月１８日を予定しており、各町内自治会、図書館、市民センター、コミュニティセンターなどに配布する。

（議題）３

次期（第６期）地域福祉計画の方向性について

地域福祉課遠藤課長補佐より資料４に基づき説明があった。

<質疑応答・意見>

金子委員長 各地区部会からの報告書には「あんしんケアセンターと協働」という言葉がたくさん出てきます。こちらの勉強不足ではありますが花園地区では、なかなか出てこない。せっかくあんしんケアセンターが素晴らしい活動をしていただいているので、私どもの会議にも出てきてもらいたいと思うところです。あんしんケアセンターが民生委員等と地域連絡会議などを開くとき、どのように取りまとめているのですか。

近江委員 今年度に関しては自治会から依頼をいただいて、そこで私たちができることとご要望をすり合わせて、実際に伺うという形が最も多くなっています。

（あんしんケアセンター花園）

金子委員長 何かプログラムを実施することになれば、あんしんケアセンターの人数も多いわけではないため、大変ではないかと感じています。我々とタイアップできることがあるとすればどのように依頼したらいいのか教えていただけますか。

早川委員 自治会や民生委員と気になる高齢者について話をする中で、例えば「介護施設のことをもっと知りたい」という意見が出てくることがあります。今年は地区民児協から「介護施設について知りたい」との依頼があり、近隣の特別養護老人ホームや老人保健施設の見学ツアーへと発展しました。

金子委員長 年次目標の中に「地域ケア会議で検討された課題について検討する」と記載されており、かなり重要なウエイトを占めていると考えます。ぜひ、これからも協力して進めていただきたいと思います。

犬田委員 現在悩んでいるのは、２点あります。一つ目は、どのような福祉制度があるのか知らない住民が多い中で、それらの制度についてどのようにＰＲ活動を行っていけばいいのかという点です。

二つ目は、後継者の問題です。その地域で福祉活動を支えてくださるリーダー的な存在になる後継者をどのように発掘していけばいいのか。今までは人間関係に頼った形で進めてきましたがうまくいかなくなっています。もっとオープンに「こういった活動をしたいのですが、お手伝いしていただけないですか」と呼びかけることで、地域の中から「じゃあ、やってみようか」という雰囲気生まれてくるのではと考えています。

我々が行っている支え合いのまちづくりが、ちょっとした手伝いで参加できることを知ってもらえれば、「日曜日しか手伝えないが協力してみよう」といった人材は一

定数生まれてくるのではないのでしょうか。PRの仕方や広報誌をどのように作成していくかについて検討しています。

鈴木副会長

若い力を取り入れるために、福祉活動推進員には育成委員の保護者の方々にも積極的に参加していただいています。就労している方には、役員会の出席を求めませんが、イベントやお祭りの際の手伝いだけでも、とても助かっています。

若い世代に繋げていきたいという思いから、次年度は若い地区部会長へバトンタッチする準備をしています。新しい地区部会長の年代層になれば、自然と若返るのではないかと考えています。年配者が下支え役として、縁の下の方を持ちを担うつもりです。そのような形で活動を始め、区民まつりや横橋貝塚100年祭も皆さん喜んで参加してくださいました。地域に学校がある場合、学校の保護者を巻き込むことが最も効果的ではないかと考えます。

橋立委員

スタッフを維持できるかどうかは、地区部会にとっても重大な課題だと思います。私どもでは広報誌を年3回発行していますが、そのうち2回は活動報告と活動予定を中心としています。残りの1回は人材募集に特化した内容としています。

イベントの際にも人材募集のポスターを掲示し、来場者といろいろと話あっています。健康な高齢者の方には「サービスを受けるだけよりもする側に回りませんか」という提案を行っています。地区部会の文化祭では、広めのスペースを借りて、社協地区部会の活動PRと人材募集を行っています。鈴木副委員長から話があったように、学校とつながりを持ち、こどもを介して保護者に参加してもらおうということは、なかなか実現していないのが現状です。

吉田所長

私は中央区に住んでおり、地域の自治会（277世帯）で、2年前から自治会の副会長を務めています。町内自治会に加入してもらえないといった問題が生じた際、50代の役員が比較的そろっていたため、会員募集の方法について意見を出し合いました。新しく家を建て、地域に住み始めた世帯に対し、自治会の加入を直接お願いするのではなく、そのご家族の年代をみて、同じ年代の役員がまず声をかけるようにしています。自治会長や民生委員が先に訪問すると、「勧誘ではないか」と警戒され、うまくいかないことが多かったためです。

家族の話などをして、仲良くなり、関係を築いたうえで自治会加入を勧めると、ほぼ100%に近い割合で加入していただいています。

また、前回の推進協で「災害支援における地域連携」について話をする機会をいただきました。現在、3か所の地区部会で講座を実施しています。町内自治会や、地域住民の方々が顔の見える関係を築き、災害発生時にスムーズに支援体制がとれるように、本講座を活用していただきたいと考えています。

清水委員

次期地域福祉計画についての質問

これまでは、花見川区では各地区部会で多くの取組項目の中から、自分たちが取り組む項目を選び提示してきました。次期計画では、資料に「多くの地域で実施される取組みについて『地域の取組み』としての概要を掲載」と記載されています。

これは、区としてこれを取り組みましょうというふうになってしまうのか、それとも今までどおりでいいのか教えてください。

遠藤課長補佐

現行の地域の皆様が行っている活動をベースに考えていますので、そのベースは一切変わることはありません。どのような取組みを共通的な地域の取組みとして計画に位置付けていくか、これから検討する予定です。皆様の活動自体は現行どおり進めていただいて、いままでと変わるものではございません。

清水委員 評価について、ここでの評価は他者が評価するのではなく、自分たちで振り返る自己評価を行ってきました。今後も評価の方法は変わらないという理解でよろしいでしょうか。

遠藤課長補佐 評価については地域によって様々な意見、考え方があって難しいところです。客観的な基準で評価するというよりは、皆さんの振り返りのなかで、例えば、「この辺はうまくいかなかったから、来年はこの辺を強化しよう」「これはうまくいったから、周りの自治会にも薦めたらどうか」とか、そのようなイメージがございます。ご自身が振り返るといった意味では評価は必要ではないかと考えております。

橋立委員 二つ質問いたします。ひとつは、この計画の前提になるような、千葉市の社会的状況の検討はここでされているのでしょうか。例えば、急速な高齢化やこどもの児童福祉の問題が出てきています。

二つ目は、資料４ページの「地域の取組みの推進体制」の記述で、「社協地区部会がエリア内の活動状況の把握や活動の促進を行い、取組みを推進していきます。」とあります。社協地区部会にそこまでの力を持っているのか大変不安なところであります。自治会や民生委員も、それぞれが理念を持って活動しており、我々が意見を取りまとめることが本当に求められているのか、見解を教えてください。

遠藤課長補佐 一つ目の質問についてですが、今後、新たな計画につきましては、市の福祉等に関する上位計画を前提とすることを考えています。また、一方で市役所の各部署では、個別の部門計画として高齢化に対する対応、こどもに対する対応を定めているところでもあります。それらの計画と齟齬が生じないよう調整しながら、次期地域福祉計画に取り組んでまいりたいと思っています。地域福祉計画を定めるにあたって、そういった状況の分析等も踏まえて進めていきたいと考えています。

二つめの質問ですが、社協地区部会に重きをおいた推進主体として、現行の地域福祉計画は規定してきました。ただし、各区状況が異なりますので、「それでよい」という意見もあれば、「地区部会だけでは活動を継続していくのが難しい」という意見もあります。例えば地域の他の資源、NPO団体、福祉施設など、様々な担い手について規定していくことを検討し、各区の意見を伺いながら、進め方を考えていきたいと思います。

犬田委員 要約すると、市が地域の課題や取組みを一覧にして示し、地区部会がその中から取捨選択をする。地区部会で重点課題を選択し、実施し、自ら評価していくということイメージしました。花見川区として重点的に取り組む内容を決めるのではなく、千葉市全体の計画のなかから、何に取り組むかは地区に任せるといった理解でいいのでしょうか。

遠藤課長補佐 次期地域福祉計画では、各区で共通的に行われている取組みを「共通的な地域の取組み」として掲載する想定です。ただし、掲載された取組みを必ずやってください、それ以外はやらないでください、というものではありません。現在、実施している取組みをベースに、次期計画で示された新たな取組みを加えることも可能です。例えば、新たな主体を巻き込んだ活動が生まれることを期待しています。

評価についても、みなさんの中で振り返りをして、こういう評価をしている、だから、今後も続けていこう、他の地区では新たなことをやっているとか、そういった新たな発見をしていただければと思っています。現在、行っていることを大きく変えることは想定していません。

犬田委員 昔はご近所付き合いがありました。現在は地域社会における人間関係が希薄になっています。一方でお祭りには多くの人が集まるものの、お祭りの運営に関わる人は集まらない現状があります。「できるだけ楽をして参加したい」という要望は、地域

社会にたくさんあると思います。そういった要望に、我々はどのようなお手伝いができるのかということは、支え合いのまちづくりの具体的な一例であると考えます。

最近、大人の方が挨拶をしないですれ違う傾向がある。こちらから挨拶をすれば、挨拶を返してもらえることも多いです。この程度の関係性でいいのか。「今度サロンがあるので一緒にませんか」というふうに声を掛け合える関係になるまではちょっと大変だけれども、そういうことを積極的に我々がやっていかなければと思います。地区部会のメンバー同士で話し合っ、もっと積極的に声掛けを行ったり、活動に誘ったり、そういうことが、支え合いのまちとして大事なんだと思います。

遠藤課長補佐　次期計画について、皆さんの課題である担い手不足については、特効薬がないというのが正直なところですが、何らかの施策が必要であるといった規定については検討を続けていきたいと考えています。今回いただいた意見についても、今後、推進協議会の役割を考えていくうえで、参考とさせていただきます。

(閉会)

金子委員長が閉会挨拶し、午後4時45分、花見川区支え合いのまち推進協議会を閉会した。